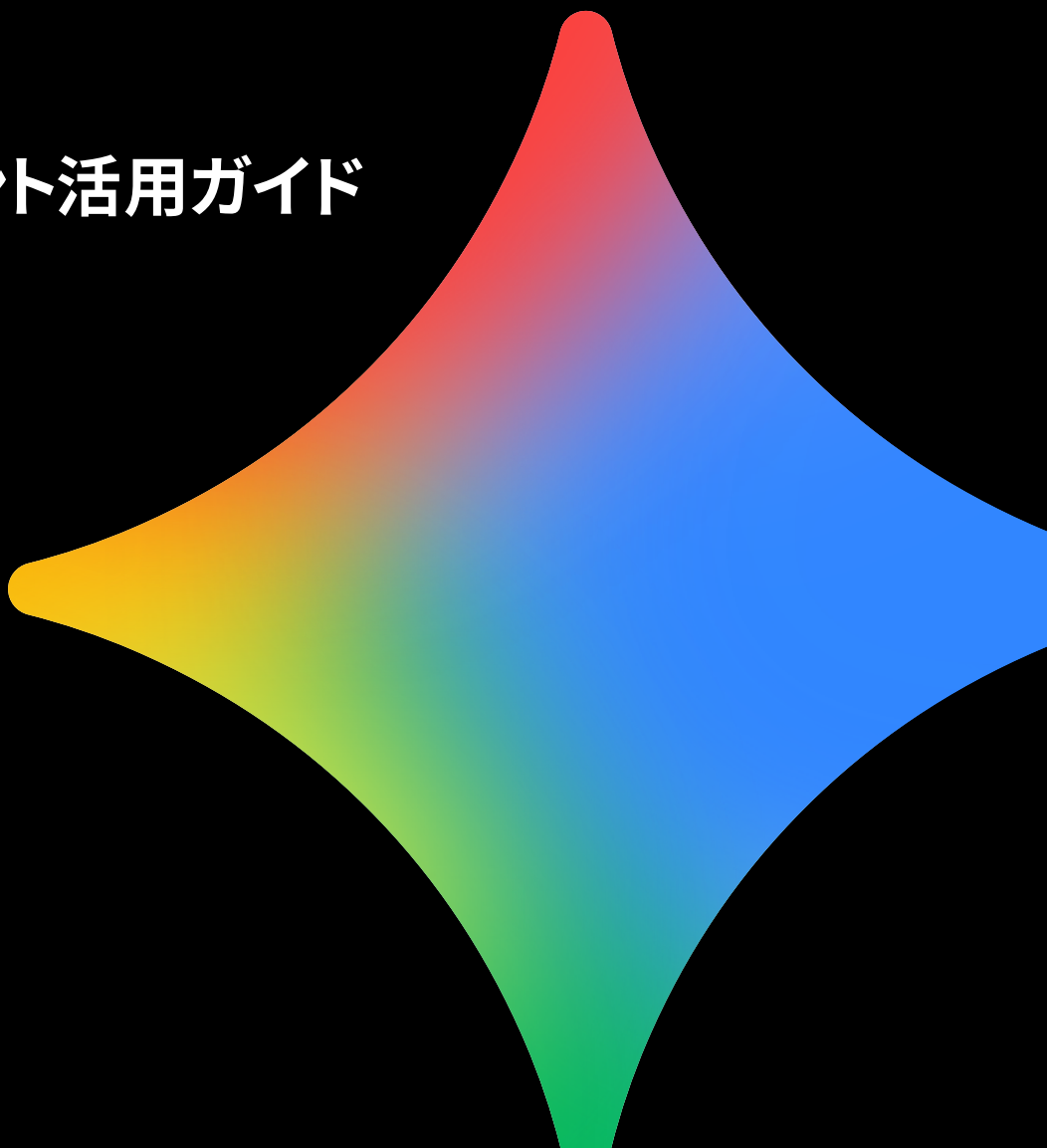
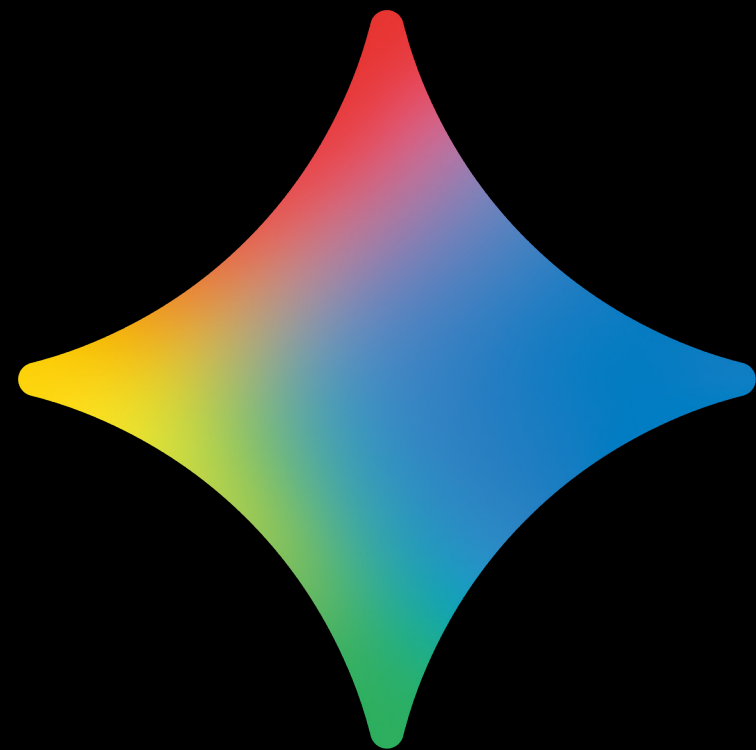


Gemini Enterprise 入門

企業向け AI エージェント活用ガイド





**Gemini Enterprise で、
働き方を新しく。**



INDEX

- 01** Gemini Enterprise とは p.03
- 02** 職場における AI エージェント調査 p.05
- 03** AI エージェント導入ステップ p.21
- 04** ここから始める、AI エージェント p.32
- 05** お役立ちコンテンツ p.41

ユーザーにとって便利な、AI エージェントという「攻め」のテクノロジー。
それらを支える、ガバナンスやセキュリティという「守り」のテクノロジー。
Gemini Enterprise は、企業の AI 活用につわる
「攻め」と「守り」の両輪から支えます。

◆ Gemini Enterprise

攻め

AI への入口：あらゆる日常業務のハブ

現場 生産管理 調達・SCM 経営 営業 マーケティング 法務

エージェント

守り

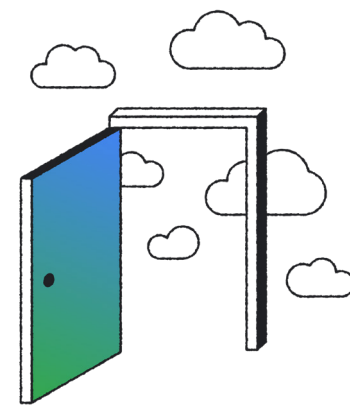
AI 基盤：開発・保守・運用

構築
Build

拡張
Scale

ガバナンス
Govern

最適化
Optimize



職場における「AI の入口」 Gemini Enterprise

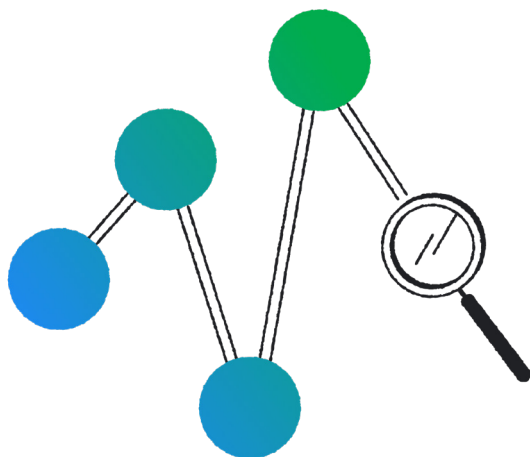
Gemini Enterprise app

Gemini Enterprise app は、あらゆる従業員がすべてのワークフローで最先端の Google の AI を利用できる高度なエージェント プラットフォームです。
Gemini Enterprise を使用すると、チームは単一の安全な環境で AI エージェントを発見、作成、共有、実行できます。

直感的なチャット インターフェースを通じて Google の強力な AI モデルにアクセスしたり、Google Cloud や多彩なパートナー エコシステムが提供する、すぐに使えるエージェントをデプロイしたりできるほか、強力なノーコード ワークベンチを使用して独自のエージェントをカスタマイズすることもできます。
また、これらにおいて、すべてのエージェントに対するセキュリティ、プライバシー、ガバナンスを維持できます。

Gemini Enterprise Agent Platform

Gemini Enterprise Agent Platform は、エージェントを構築、拡張、管理、最適化するデベロッパー向けの Google Cloud の包括的なプラットフォームです。
エージェントを構築するための機能が 1 か所にまとめられ、エンタープライズ アプリケーションやワークフローを強力なエージェント システムへ変革できるようにします。



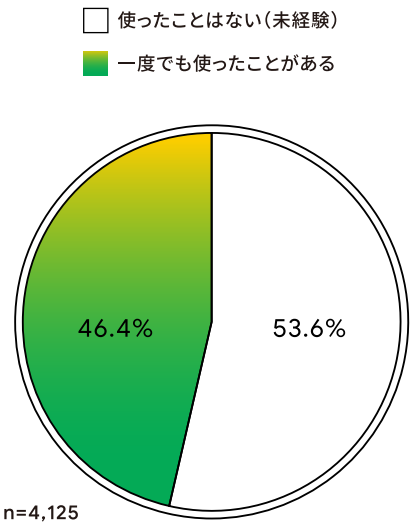
職場における AI エージェント調査

調査監修：矢島 洋子氏
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 執行役員
政策研究事業本部 主席研究員
チーフ・ダイバーシティ&インクルージョン・オフィサー

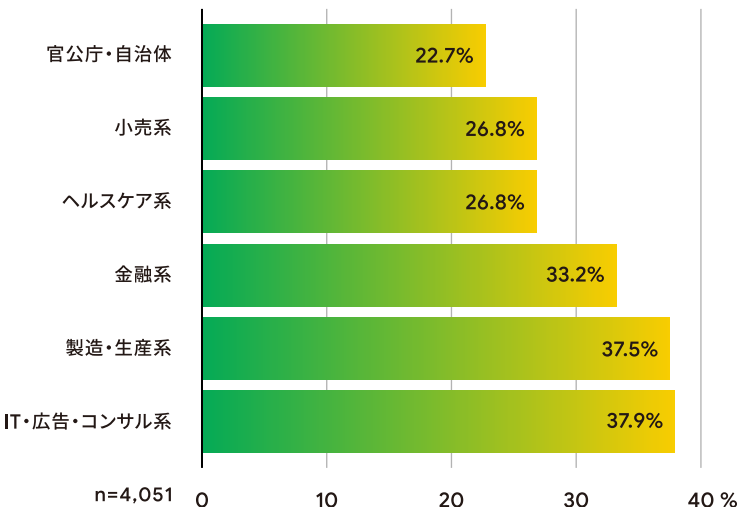
「AI エージェント」を 仕事で使ったことがあるのは、まだ半分

仕事で一度は AI エージェントを使ったことがあると回答したのは全体の 46.4% で、仕事で月 1 回以上、AI エージェントを利用する方は、全体の約 3 割にとどまります。業種によって利用状況に差があり、小売やヘルスケア、官公庁・自治体では、AI エージェントを使っていない方は 6 割まで高まります。一方で、製造や IT 業種は使用率が高まり、比較すると AI エージェント活用が進んでいます。

AI エージェントの利用経験



業種別 AI エージェント仕事利用率(月 1 以上)



Q. あなたは「仕事」で、AI エージェントをどの程度使用していますか。
業種計 4,051 名(現場・インフラ系：372、製造・生産系：1,037、卸売系：134、小売系：201、サービス系：355、ヘルスケア系：488、金融系：179、保険・不動産系：207、IT・広告・コンサル系：440、官公庁・自治体：639)

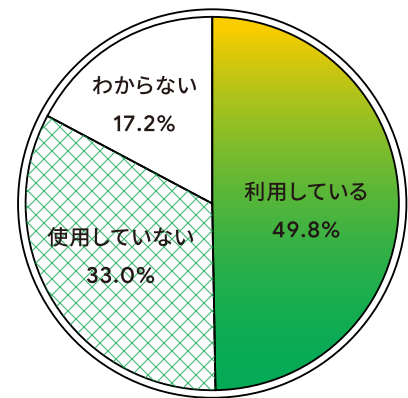
「AI エージェント」利用者の 約半数が、シャドー AI

仕事で使用している勤務先「非公認」のツールやサービス(私用アカウントでの利用を含む)の利用者は 49.8% にもものぼり、20 代では 57.3% と最もシャドー AI 比率が高まります。

AI エージェントにおけるシャドー AI 使用者のうち、5 割が週 1 以上、業務で使用しており、シャドー AI が常態化していることがうかがえます。

シャドー AI の利用率(全体)

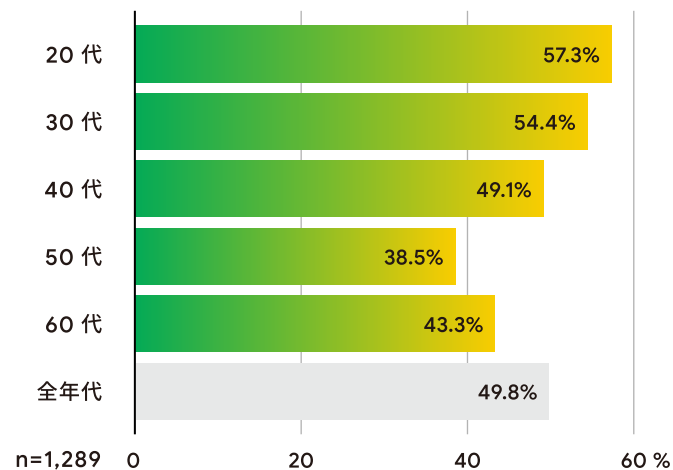
■ 利用している ■ 使用していない □ わからない



n=1,289

※「仕事」での AI エージェントを利用すると回答した 1,289 名対象

年代別 シャドー AI 利用率(AI エージェント)



n=1,289

Q. あなたが「仕事」で使用している AI エージェントのツール・サービスをすべてお選びください。

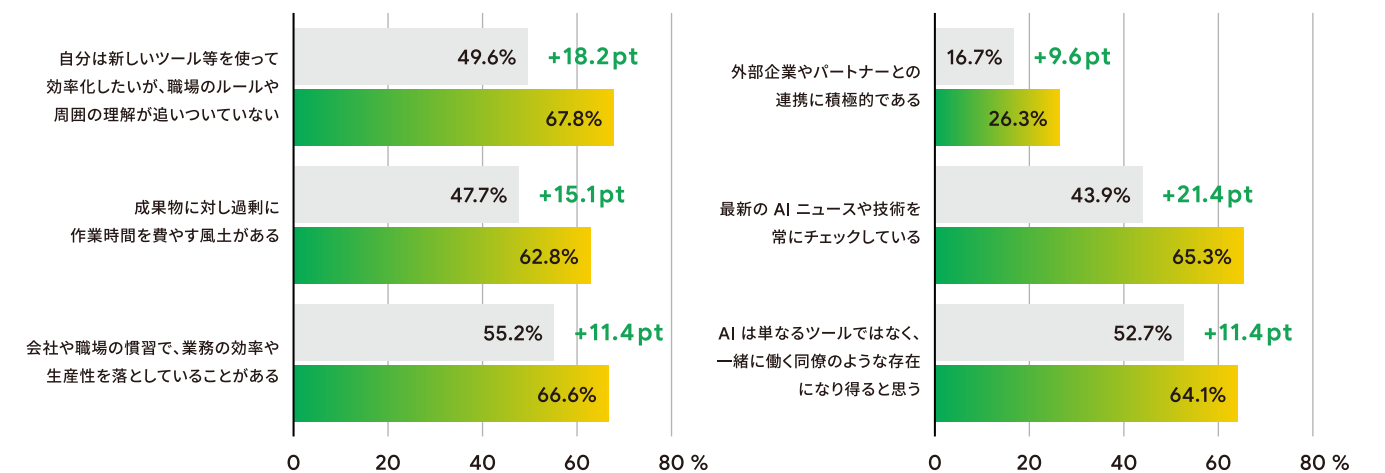
全体: 1,289 名(20 代:249、30 代:346、40 代:370、50 代:218、60 代:105)

シャドー AI 利用者は、 組織の中でも課題意識が強い、 潜在的なイノベーター

働き方に対する意識や実態において、全体とシャドー AI 利用者とは顕著な違いが見られる。シャドー AI 利用者は、職場の非効率な慣習や過剰な作業を強いる組織文化に対して人一倍強い課題意識を持っており、自ら新しいツールを取り入れて現状を打破しようとする「潜在的なイノベーター」の気質を備えていることがわかります。

職場に対する認識

■ 全体(n=2,444) ■ シャドー AI 利用者(n=643)



※シャドー AI 利用者:「AI エージェント」における勤務先でのシャドー AI 利用

Q. あなたの勤務先や働き方について、現状の認識に近いものをそれぞれお選びください。

経営層が寄せる、AI への期待：

作業が削減し、自由時間が 生み出され、専門スキルがなくても 創作活動が行える

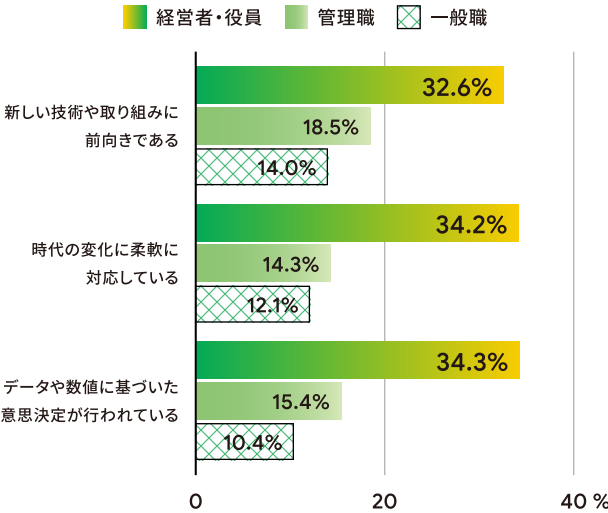
経営層、管理職、一般職では、全体的に AI に対する意識にギャップがあります。経営層は、AI は社会全体をより良くしていくと思う 52.6% / 自分の業務の一部を AI に完全に任せ、自動で完結させることに抵抗はない 55.5%、とポジティブに捉えているものの、現場社員とは 10pt 以上の開きが生じています。

現場が寄せる、AI への期待：

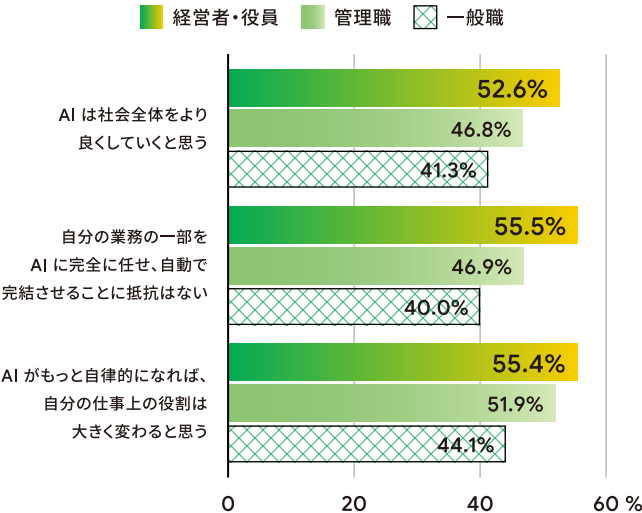
あいまいな指示でも適切に回答し、 ベテラン社員のノウハウが 継承される

業務における AI に対する期待していることについて、そのギャップは顕著に出ています。経営層はリソースの最適化から新たな価値の創出という「未来」を描く一方で、現場が求めているのは「目の前にある煩雑な業務やストレスをいかに減らせるか」という「現在」の切実な課題解決です。

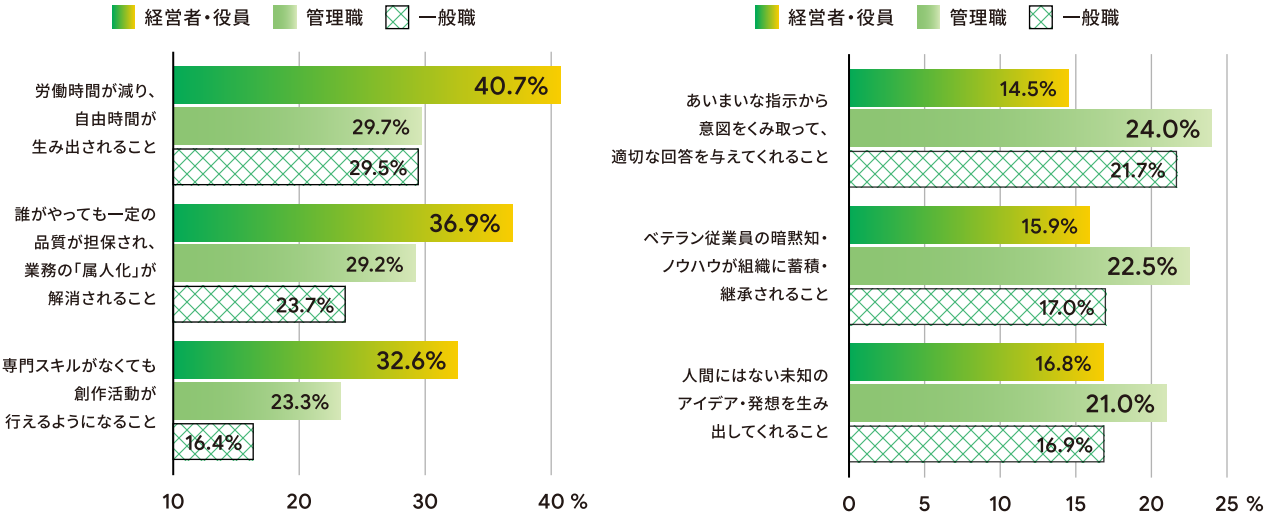
勤務先の社風に対する意識



AI に対する意識



AI へ期待すること

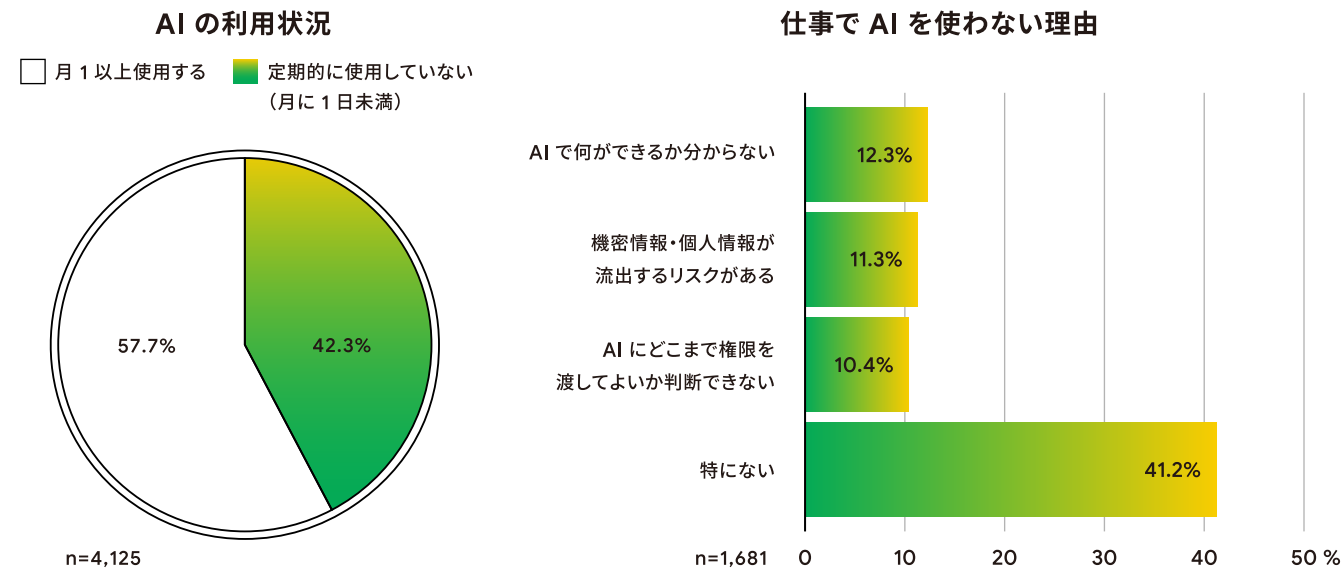


Q. あなたの勤務先の社風として、あてはまるものをすべてお選びください。 Q. AIに対する意見や考え方について、あてはまるものをお選びください。
全体：4,125 名（経営者・役員：43、管理職：1,872、一般職：2,210）

Q. あなたが今後の業務における AI に対して、期待していることとしてあてはまるものをすべてお選びください。
全体：4,125 名（経営者・役員：43、管理職：1,872、一般職：2,210）

AI を仕事で使わない理由は、 実は、あまりない ハードルは「特にない」が 4 割以上

仕事で、AI（生成 AI や AI エージェント）を定期的には使用していない方は全体の 42.3 % にのびります。
その方々に使用しない理由や使用上のハードルを聞くと、20 項目のうち、1 割を超えた理由は 3 つのみ。
41.2% がハードルは「特にない」と回答。「会社のルールで禁止・制限されている」7.5%、
「PC のスペックや動作環境が合わない」2.9% と、仕事の環境によるものではないことが明白です。



Q. 「仕事」において、あなたは生成 AI、AI エージェントをどの程度使用していますか。

Q. 「仕事」において、AI（生成 AI や AI エージェント）を定期的には使用していない方におうかがいします。
AI を使用しない理由や、使用する上でハードルとなっていることは何ですか。

AI を使って感じる成果は？ 業種ごとにメリットが分かれる

作成物（文書・資料等）の品質・一貫性の向上や、業務スピード・生産性の向上、
そして反復的・単純作業の時間削減が、半数以上の方に AI の成果として挙げられています。
その成果は、業種によって異なり、商社やヘルスケアでは作成物の品質向上、
IT・コンサルでは業務スピード・生産性の向上、商社などの卸売系や建設や運輸のインフラ系では、
社内コミュニケーション・情報交換の活性化が最も高く挙げられています。

AI による成果（業種別）

■業務スピード・生産性の向上

1. IT・広告・コンサル系 63.5%
2. ヘルスケア系 60.9%
3. 製造・生産系 58.5%

■文書・資料等の品質・一貫性の向上

1. ヘルスケア系 62.9%
2. 卸売系 62.8%
3. サービス系 59.8%

■反復的・単純作業の時間削減

1. ヘルスケア系 57.0%
2. 現場・インフラ系 56.3%
3. 製造・生産系 51.8%

■社内コミュニケーション・ 情報交換の活性化

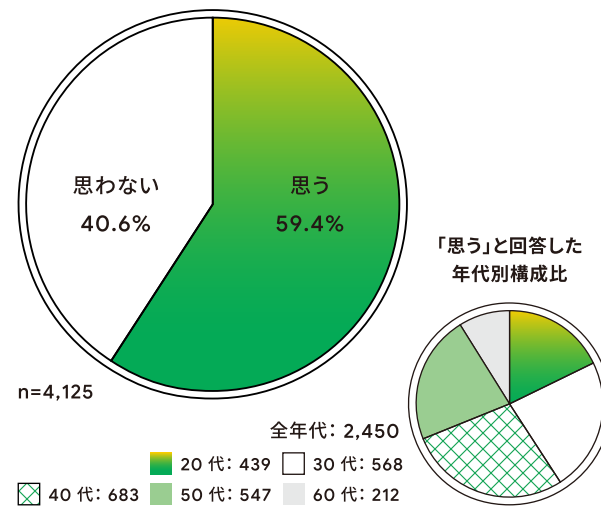
1. 卸売系 44.5%
2. 現場・インフラ系 40.0%
3. サービス系 35.4%

Q. 仕事で AI を使うようになってから、どのような成果を実感していますか。それぞれお気持ちに近いものをお選びください。
業種計 2,403 名（現場・インフラ系：199、製造・生産系：711、卸売系：77、小売系：103、サービス系：191、ヘルスケア系：254、金融系：112、保険・不動産系：120、IT・広告系：326、官公庁・自治体系：310） ※ 仕事で、生成 AI または AI エージェントを利用していると回答した方

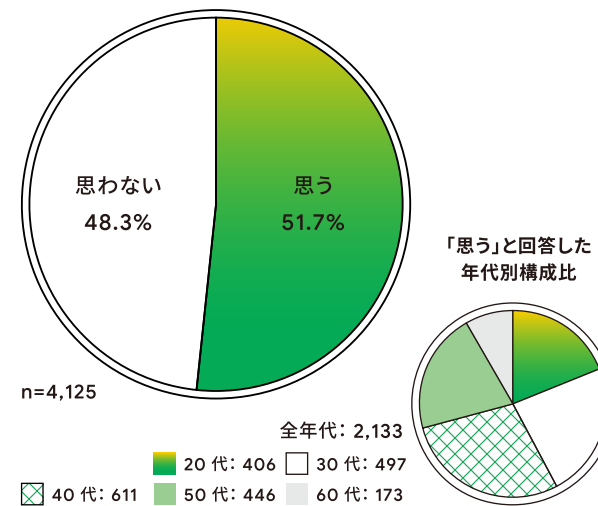
もし AI を活用したら、 「精神的なゆとりを持てる」約 6 割

AI に対する意見や考え方では「手が回らない業務を AI が支えてくれたら、精神的なゆとりを持てると思う」が 59.4% を占め、全年代で大きな差がなく選ばれていました。半数以上が「今後、さらに AI を積極的に取り入れていきたい」と回答しています。また、20 代・30 代はプライベートにおける AI 利用率も高く、AI が生活も便利にしていると考えています。

手が回らない業務を AI が支えてくれたら、
精神的なゆとりを持てると思う(全体)



今後、さらに AI を積極的に
取り入れていきたい(全体)

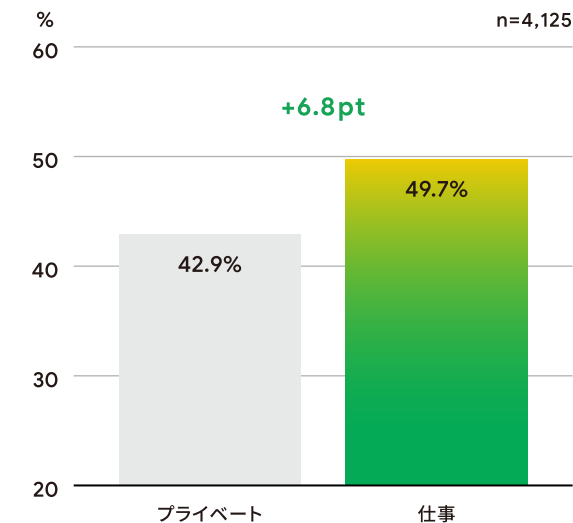


Q. AI に対する意見や考え方について、あてはまるものをお選びください。

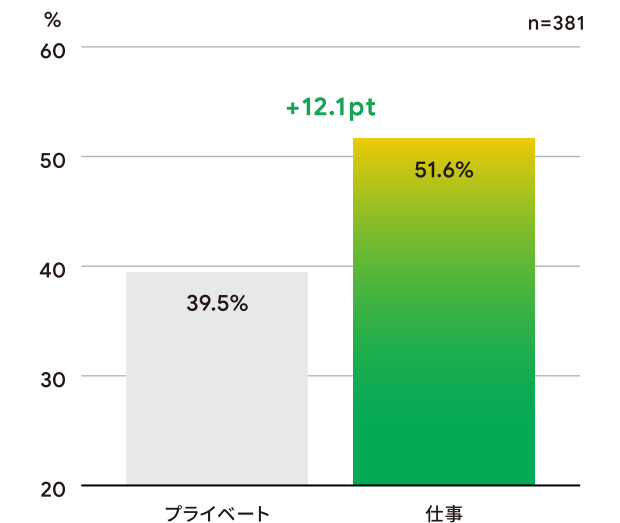
AI 活用の期待は、 プライベートよりも仕事の方が高い

AI がより発展した場合の「プライベート」と「仕事」についての充実度は、仕事利用の方が 6.8pt 高いという結果が出ています。また、AI エージェントが職場に導入されながらも、使用していない方では、その傾向がより顕著に出ています。AI への期待は、日常よりも「働く現場」に向かっています。

【全体】AI 発展後の充実度



【AI エージェント導入済み・使用なし】
AI 発展後の充実度



Q. AI がより発展した場合、あなたの人生や生活における「プライベート」と「仕事」についての充実度は、現在からどの程度変化すると思いますか。点数で回答ください。 ※「AI がより発展した後」の点数がプラスになった方を集計

AI エージェントを仕事で活用 できたら“より仕事は充実する” 未来を描いている

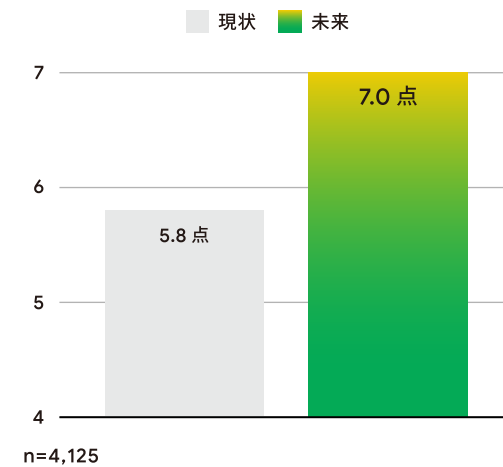
市場における、生成 AI の内容認知者が 7 割に対し、AI エージェントの内容認知者は約 4 割。

これらの AI 理解度の低い層は、AI で何ができるのか、自身へのメリットが理解できておらず、
情報漏洩などのリスクイメージが先行してしまい手が出ない状況です。しかし実際に「AI エージェントを
仕事に活用できたら」と想像すると、仕事の充実度は平均 5.8 点から 7.0 点へと +1.2 上昇。

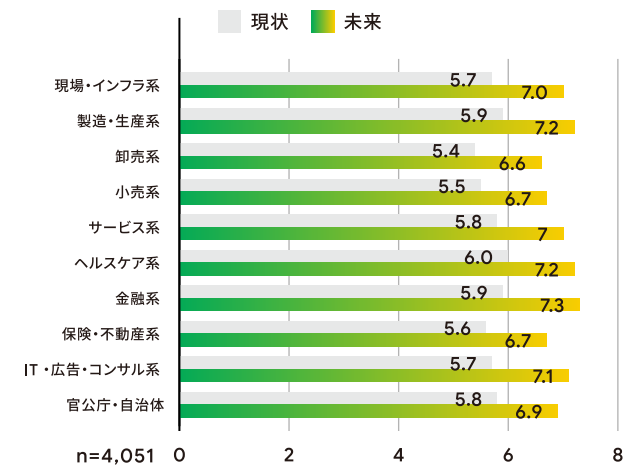
この高まりはすべての業種で共通して見られ、いずれも 1 ポイント以上の伸びを示しました。

AI エージェントは、業種を問わず “より仕事が充実する” 未来の手応えにつながっています。

AI による仕事の充実度の変化(全体)



AI による仕事の充実度の変化(業種別)



Q. あなたは、人生や生活における「プライベート」と「仕事」それぞれに対して、どの程度充実していると感じますか。それぞれ 0 ～ 10 点で教えてください。
業種計 4,051 名(現場・インフラ系: 372、製造・生産系: 1,037、卸売系: 134、小売系: 201、サービス系: 355、ヘルスケア系: 488、金融系: 179、
保険・不動産系: 207、IT・広告系: 440、官公庁・自治体系: 639)

AI エージェントを、こんな風に活用したい

情報収集として活用するだけでなく、プログラミングコードの作成補助などの提案してもらい、意思決定や単純作業の時短を行いたい
一般職 男性 28 歳／製造業・メーカー

仕事の知識を入れていき、わからないことがあっても他の職員に訊く負担を減らしてくれる
一般職 男性 34 歳／官公庁・自治体

単一作業の自動化のみならず、業務全体を横断的に自動化する事を希望しているため
一般職 男性 35 歳／IT・通信関連

会計書類の作成に時間がかかっており、複数のデータにまたがって作成するので、処理能力が高くルール通りに判断できる AI エージェントに、正確な処理を期待している
一般職 女性 29 歳／製造業・メーカー

現在の業務で時間を掛けているデータの分析や企画書・提案書などのたたき台作成や関数などを組んだファイルの作成にも使いたい。それによって時間短縮・効率化を図りたい
係長・主任クラス 女性 32 歳／保険

データ収集と分析、膨大なデータの集計などを瞬時にしてくれること。またそのクオリティや信頼度が UP すること
一般職 女性 34 歳／小売業

シフトの調整で使用して作業の短縮を図りたい
一般職 男性 53 歳／介護・福祉関連

すべての時間がかかっている事務作業をすべて自動化してほしい。メール返信、Q&A、分析など
一般職 女性 40 歳／製造業・メーカー

繰り返し使用するタスクを AI に担ってもらえれば時間短縮に繋がりを他の業務にもっと時間を費やせるから
係長・主任クラス 男性 34 歳／小売業

完全に意見を参考にするのではなく、1 人の優秀な社員のような扱いで自立した作業をしてもらい、それに対してこちらが意見を述べてブラッシュアップしたり、反面教師のような形で業務を作っていく。多角的に業務をするために使うようなイメージ
係長・主任クラス 男性 40 歳／小売業

複数のセキュリティツールや通信サービスの見積もりを比較し、コストとスペックの観点から「今回はこれを選択すべき」というロジック付きのレポートを自動生成させたいです
係長・主任クラス 男性 45 歳／鉱業・建設業

情報収集や事務入力の一部代理してほしい。面倒なマシーンや製品のエラー作業を一部代理してほしい。作業を代理するようになると他の仕事が増えるかもしれないが、
一般職 男性 45 歳／製造業・メーカー

仕事で AI エージェントを活用することにより、業務の効率化や、必要な書類作成などの時間の短縮化につながるとよい
一般職 女性 35 歳／病院・医療関連

Q 「仕事で AI エージェントを活用したいと思うか」という質問で、活用したいと回答した理由を教えてください。

迫る「2030 年の壁」

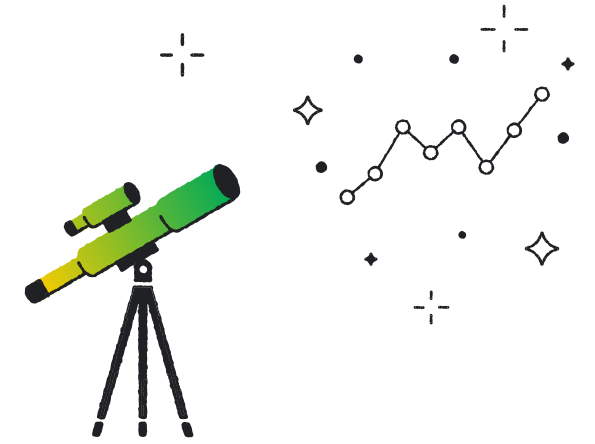
AI の進化と一緒に、 人も組織も可能性を広げるために

「2030 年の壁」は、少子高齢化と人口減少により、日本社会の在り方に大きな変化をもたらす課題として広く認識されています。労働力不足が進行する中、企業の持続可能性を保つための対応が求められており、その解決策の一つとして AI の活用に期待が寄せられています。本稿では、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの矢島洋子氏に、単なる効率化に留まらず、企業が AI と共に新たな価値を創出していくための展望を伺います。

2030 年の壁が指摘されるようになったのは、10 年ほど前からですが、現在のように日本の人口が減少することは 40 年前から指摘されていました。そして、2030 年を待たずとも、すでに労働人口は減少し、企業の労働需要とのギャップが顕在化しています。

そうした中、今回の調査テーマである AI を活用した業務の効率化や質の向上、新しいビジネスの創造などが期待されています。しかし、本当に日本企業は、AI を活用して 2030 年の壁を越えられるのでしょうか。これまでも日本企業は、デジタル化、DX、働き方改革等を通じて、労働力不足への対応をはかってきましたが、その取組みの中で、同じ失敗を繰り返してきています。こうした手法の効果がこれまでの仕事の効率化のみに留まり、新しい価値やビジネスを生み出すことにつながっていない、という問題です。

これまでの仕事を効率化しても、付加価値が高まらないため、企業の業績も上がらず、社員の処遇も改善せず、人員削減が行われる。今回の調査においても、経営層に比べて現場の社員が AI 導入の効果に消極的な評価しか与えていないのは、こうしたこれまでの経験があるからではないでしょうか。



PC が導入され、手作業がデジタル化されても、実感としての忙しさは解消されず、処遇も上がらない。DX で現場の生産性が多少上がっても、企業のビジネスモデルが変革されず、会社としての生産性は大きく上がらない。働き方改革についても、単なる現場の生産性向上運動に終わってしまい、D&I や人材育成につながらない。

こうした失敗の繰り返しの原因がどこにあるのか。今回の調査にも、その一端が表れていると思います。経営層は、「業務の『属人化』が解消される」「専門スキルがなくても創作活動が行えるようになる」「労働時間が減り自由時間が生み出される」といった、少ない労働力、高いスキルを持たない人材で、これまでの業務が行えるようになることを期待しています。一方、一般の社員はこれらにあまり期待していません。また、「未知のアイデア・発想を生み出す」「新しい能力・スキルの習得」には、経営層も一般社員もあまり期待ができていません。さらには、一般社員、特に若手がプライベートなどで活用していて、業務においても期待が持てると考えている AI などは、特に具体的なハードルがあるわけでもないのに、まだ導入していない企業が少なくない。こうした状況も、一般社員が大きな期待を持てない要因のようです。

AI 導入以前に、在宅勤務の利用に関しても、今回の調査からは、日本企業の働き方やマネジメントの変革に消極的な姿勢がうかがえます。現場での対面業務が必須となる小売業やエッセンシャル ワーカーに限らず、公務部門や金融業など業務特性において特段のハードルがあるとは考えられない業界において「まったくしていない」の回答割合が 6 割～ 7 割を超えるというようにです。※

労働人口の減少に合わせて縮小均衡を図る方向ではなく、組織を豊かに大きく発展させる、そのために経営者や社員が AI と共に新しいものを生み出せるよう育っていく。そして、そのことによって、新たな人材を惹きつける魅力を持った組織になる。そうした展望を持って、AI エージェントを積極活用していくことが求められているのではないのでしょうか。

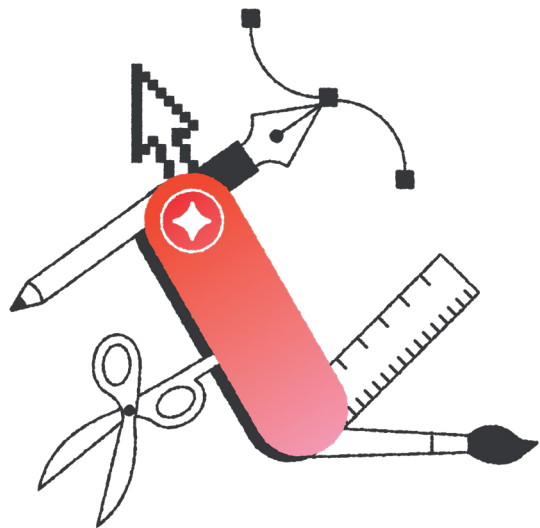
2030 年まであと数年です。その間、AI 技術は大きく進化するでしょう。企業に求められるのは、その時を待って技術を導入するのではなく、技術の進化と共に経営も社員も成長をはかり、新しい技術がもたらす新しい可能性を恐れず活かせる環境を、今から作っていくことではないでしょうか。

※ Q：現在の勤務先における在宅勤務状況として、あてはまるものをお選びください。全体 4,125 名
「在宅勤務はまったくしていない」全体 60.2%（小売系 77.2% / エッセンシャル ワーカー系 82.9% / 金融系 62.4% / 官公庁・自治体 77.4%）



矢島 洋子氏
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 執行役員
政策研究事業本部 主席研究員
チーフ・ダイバーシティ&インクルージョン・オフィサー

- 調査期間：2026 年 5 月 22～24 日
- 調査手法：オンライン調査
- 調査会社：QO株式会社
- 調査対象：
 - 20-69 歳の正社員、または、官公庁に勤める公務員
 - 企業の従業員規模 300 名以上 ※官公庁除く
 - 仕事でデジタル機器（PC・スマホ・タブレット）の使用が「すべて 30 分未満」の方は対象外とする
- サンプル回収：
 - 本調査：合計 4,125 ss 回収
 - （性年代 10 歳刻み、男女 10 セルにて割付）
 - 有職者人口構成比にてスクリーニング調査を配信
 - 調査対象者条件の出現構成比に合わせて回収



AI エージェント 導入ステップ

監修: 森 正弥氏

株式会社博報堂DYホールディングス執行役員 Chief AI Officer
一般社団法人 日本ディープラーニング協会 顧問
内閣府人工知能戦略専門調査会委員

日本においては、多くの企業で AI エージェント活用が PoC 止まりであることが指摘されています。「実験は豊富だけどスケールは希少」という構造を打破するためにも、AI エージェント導入への期待と本質的意義を見定めながら、自社の導入方針を定めていきましょう。

旧来の AI チャットボット

- 質問に答える（単発の情報提供）
- 人間が次の指示を毎回入力する
- テキストを生成して終わる
- 単一の会話で完結する

AI エージェント

- ゴールに向けて複数ステップを自律実行する
- 自分でツールを選び、実行し、結果を確認して続行する
- 外部システムへの読み書き・操作ができる
- 時間をかけて長い業務フローをこなす

AI エージェント例：

「受注処理エージェント」は、顧客からの問い合わせを受信し、CRM で顧客情報を検索し、在庫システムを確認し、受注を登録し、確認メールを送信するまでを、人間の手を介さず一連の流れとして実行する。従来の RPA と異なるのは、例えば、顧客が注文番号を提示できない場合などの想定外のパターンでも、文脈を読んで柔軟に対応できる点にあります。

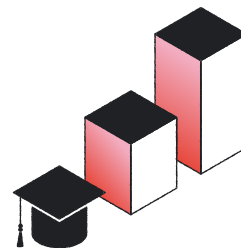
小さな一歩から、組織のパワーが生まれる

まずは、あなた自身から

組織への AI エージェント導入には、多岐にわたる部署やステークホルダーとの調整が必要となり、相応の時間と労力を要します。だからこそ、本格的な導入ステップへ踏み出す前に、まずはあなた自身が AI エージェントの力を「体験」してみてください。例えば、日々の業務で多くの時間を奪われているリサーチや資料作成、あるいはチームが抱える煩雑な定型業務など、身近なタスクを一つ任せてみませんか。実際に AI エージェントが自律的に動く姿を目の当たりにすることで、「AI エージェントと一緒に働く」ことへの意識が大きく変わるはずです。

また、ご自身の身近なタスクだけでなく、「普段、チームのメンバーに任せている仕事」や「自分ではやったことのない業務」を、あえて AI エージェントに指示してみてください。AI が自律的にタスクを遂行する実力に触れることで、「AI と人間でどのように役割を分担すべきか」「タスクの任せ方や、業務プロセス自体をどう再設計できるか」といった、マネジメント視点の深い洞察をもたらしてくれるでしょう。

「自分の仕事はどう変わるのか」「チームにどんなイノベーションが起きるのか」。机上の計画だけでなく、自らの体験を通じて期待と想像を膨らませ、目指すべきゴールを鮮明に描くこと。それが、後に続く導入ステップをスムーズに推し進める最大の原動力となります。小さな「体験」の一歩が、やがて組織全体を大きく前進させる確かなうねりとなるように、まずは、AI エージェントを使ってみましょう。



AI エージェント導入ステップ

業務要求の整理（技術要件以前）を起点とし、組織・ガバナンス・人材を先に設計してから技術実装に進む順序を重視している。



業務要求の棚卸しと機会評価

所要期間の目安：2 ～ 4 週間
主な担当：ビジネスユニット リーダー、業務プロセス オーナー、DX 推進チーム

AI エージェントの導入を進める前に、業務の棚卸しを行い、エージェント適性を確認しましょう。
「かつて自動化に抵抗してきたワークフロー、特に従来の手法が摩擦を起こす場所を優先すべき」と
言われており、以下の 3 つの基準による業務評価の必要性がとえられています。

01. ルールベースのシステムでは対応しきれない複雑な判断を伴うか？
02. 現在のシステムは更新・維持が極めて困難になっているか？
03. メール、文書、音声、画像など非構造化データを大量に扱うか？

エージェントの代表的なユースケース

エージェント類型	概要	代表的な業務例
Customer 顧客エージェント	顧客ニーズの理解・質問応答・ 問題解決・商品推薦	コールセンター、EC サイト、 金融窓口
Employee 従業員エージェント	業務プロセス効率化・反復タスクの 処理・社内問い合わせ対応	人事・IT ヘルプデスク・調達業務
Creative クリエイティブ エージェント	コンテンツ生成・デザイン支援・ パーソナライゼーション	マーケティング・広告制作
Data データ エージェント	複雑なデータ分析・インサイト発見・ ファクト整合性確保	財務分析・BI・コンプライアンス報告
Code コード エージェント	コード生成・コーディング支援・ 新言語習得	ソフトウェア開発・テスト自動化
Security セキュリティ エージェント	サイバー攻撃軽減・調査速度向上・ セキュリティ態勢強化	SOC 運営・脅威インテリジェンス

組織とガバナンス体制の設計

所要期間の目安：4 ～ 8 週間 ※Step 0 と並行可
主な担当：CIO/CDO、法務・コンプライアンス、リスク管理、CISO

明確な責任所有権を持つ組織は、そうでない組織よりも、「責任ある AI」の
組織的実践度が高いとされています。AI エージェントの自律性に応じた
適切なガバナンスを適用するために、CoE のような統合的な組織体制も求められます。

エージェント セキュリティ 3 つの中核原則

原則 1:明確に定義された、ヒューマン コントローラー

エージェントを稼働させる主体とそれを見守る人間の「監督責任」を 1 対 1 でマッピングする。

原則 2:最小特権の原則

エージェント自身の接続・書込権限は、必要な最小限の API スコープに限定。

原則 3:可観測性の確保

エージェントの行動ログ、推論ステップ、ツール選択理由は、リアルタイムかつ履歴として常に検証・監査できるようにする。
(Diaz, S., Kern, C., & Olive, K. 2025. Google Research)

設置が推奨される組織体制

役割	担当領域
AI ガバナンス オーナー（責任者）	エージェント全体の説明責任・ポリシー最終権限
エージェンティック プロセス ストラテジスト	ユースケース特定・優先順位付け・戦略整合
AI ビジネストランスレーター	業務部門と技術チームの橋渡し
リスク コンプライアンス パートナー	規制対応・コントロール設計（SAIF など）
ヒューマン エスカレーション オフィサー	エージェントが処理できない案件の人間対応フロー設計
データ スチュワード	データ品質・アクセス管理・リネージ管理

パイロット案件の選定を “小さく始める”

所要期間の目安：4～12 週間
主な担当：DX 推進チーム、業務プロセス オーナー、IT 部門

まずは小さく始め、実ユーザーで検証し、段階的に能力を拡張していきます。最初のパイロットとして
おすすめは「従業員エージェント」の社内ヘルプデスク・Q&A 対応が特に適しています。
そして、最初はシングル エージェントの能力最大化に集中しましょう。
マルチ エージェントへの移行を検討するのは、下記段階に入ってからが推奨されます。

- 01. プロンプトに多数の条件分岐が含まれるようになった
- 02. 役割の重複するツールが増え、エージェントが正しいツールを選べなくなった
- 03. 単一プロンプト テンプレートが複数ユースケースにスケールしなくなった

このパイロット段階では必ず人間の監督フローを組み込みます。高リスクなアクションは必ず人間の確認を要します。

技術アーキテクチャと実装設計

所要期間の目安：パイロットと並行、または拡張段階で実施
主な担当：IT アーキテクト、データ エンジニア、AI/ML エンジニア、セキュリティ担当

AI エージェントの信頼性は、AI モデル自体ではなく、その周囲に設計するシステムの質によって決まります。

ループ エンジニアリング

エージェントが「知覚 → 推論 → 実行 → 観察」を繰り返しながら目標に向かって自律動作する仕組みで、
例えるなら、エージェント自身に PDCA を回させる設計

ハーネス エンジニアリング

ループを含むモデル外のすべての要素（ツール権限、フィードバック機構、検証ゲート、ログ監視、人間承認フロー）を含む、エージェントを安全に動かす仕組みの設計

マルチ エージェントの構築パターン

パイロットが成功し、より複雑な業務への拡張を検討する段階では、以下のパターンから選択する

パターン	パターンの概要	最も適合する実業務領域
指揮者・作業者型	中央の LLM がタスクを動的に分解し、専門ワーカー エージェントに委任・統合	必要なサブタスクや工程数が 事前に一切予測できない複雑業務
マネージャー型	中央エージェントが専門エージェントをツールとして呼び出す	シングル エージェントとしての統制・制御、 ログ管理を絶対維持したい業務
分散ハンドオフ型	エージェントが互いに業務を引き渡す	会話トリアージ（仕分け）から 特定専門エージェントへの段階的引き継ぎ
パイプライン型	直列に処理が流れる定型的なワークフロー	処理順序や検査手順がガチガチに 固定されている標準化業務
評価・最適化型	生成エージェントと評価エージェントがループを形成	品質基準や正解コード、厳格な テキスト フォーマットが求められる反復業務
動的オーケストレーション型	タスクリストを動的に構築・洗練しながら進める	オープンエンドな問題解決、障害切り分け、 未知の調査タスク

人材・スキル・変革管理

所要期間の目安：継続的 ※Step 0 から並行して開始

主な担当：人事・タレントマネジメント、変革管理担当、現場マネジャー

変革受容設計の 3 つの原則を押さえながら、役割の変化や新たに必要とされるポジションへの組織的理解や、役割に応じた段階的なリテラシー育成モデルが必要です。

変革受容設計の 3 原則

原則 1 共同設計：現場と一緒に守りと使い方を決める

原則 2 透明性と説明責任：ブラック ボックスにしない

原則 3 段階的な自律度の拡張：信頼は積み上げるもの

組織全体の AI リテラシーを底上げするためには、画一的な研修ではなく、役割に応じた段階的なリテラシー モデルが有効です。

リテラシー層	対象	主な学習内容
Tier 1 基礎リテラシー	全従業員	AI とは何か、エージェントの仕組み、 自社での活用方針、倫理・プライバシー
Tier 2 活用リテラシー	業務担当者、管理職	担当業務での AI エージェント活用方法、 Human-in-the-Loop の役割、エスカレーション判断
Tier 3 実装リテラシー	DX 推進、IT 部門、エンジニア	ユースケース設計、技術選定、 プロンプト コンテキスト設計、ガバナンス実装
Tier 4 戦略リテラシー	経営層、IT 部門マネージャー	ROI 評価、競合優位の構造、 ガバナンス ポリシーの意思決定、リスク管理

測定・拡大・継続改善

所要期間の目安：継続的

主な担当：DX 推進 CoE、ビジネス ユニット、財務企画

パイロットから全社展開へ移行するための判断基準：

01. パイロット KPI が目標を達成または超過していること

02. ガバナンス体制が本番スケールに対応できる状態にあること

03. エスカレーション経路と障害対応手順が整備されていること

04. データアクセスやセキュリティ要件が SAIF などの基準でクリアされていること

AI エージェントシステムは継続的な改善が前提です。Google が「責任ある AI に完成はない」と明言しているように、AI エージェントの導入は一度で完了するプロジェクトではなく、継続改善サイクルを確立することが重要です。

活用のスケールアップ

まずは、自部署内でできることから

一般的な調査、部内の会議の議事録作成、資料作成などの作業で、自部署内のデータを用いる。必ず、自社内のガイドラインに遵守する

つぎに、他部署との連携が必要なことへ

他部署の業務やデータ、システムと連携し、場合によっては、情報システム部門との連携も必要

そして、他企業との連携へ

他企業との取り決めや使用ルール、データ使用範囲の確認が必要。
場合によっては、双方の情報システム部門と連携する

導入ステップを開始

「明日」取り組めること：

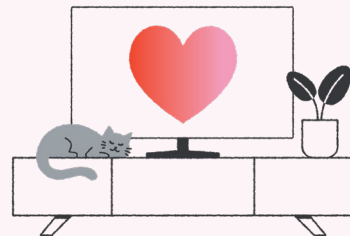
- 自社の業務一覧から「複雑な意思決定・ルール維持困難・非構造化データ依存」の業務を 3 つ特定する
- AI ガバナンスの「明確な責任所有者」を組織内に設定する
- 現在稼働または検討中の AI システムを、自律性のレベル別で分類してみる

中期的に取り組むべきこと：

- AI CoE の設置と、業務・技術・リスクをまたぐ横断チームの形成
- 3 つの導入アプローチ（「既存システムへのアドオン」「SaaS 内蔵型サービス利用」「業務・システム刷新」）の選択
- MCP・A2A 対応のロードマップ策定（ベンダー ロックイン回避と相互運用性確保）
- 技術的な自律度の進捗を、事業成果に結びつける KPI 目標の策定

参考文献

- Deloitte. (2025). [Agentic enterprise 2028](#).
- Diaz, S., Kern, C., & Olive, K. (2025). An introduction to Google's Approach for Secure AI Agents Google Research.
- Gartner. (2026, May 26). [Gartner Says Uniform AI Agent Governance Will Cause Enterprise Failures by 2027 | GetAIGovernance](#)
- Gartner. (2026, April 29). [Gartner flags rising AI agent sprawl, outlines six-step governance framework - Express Computer](#)
- Google AI. (2026, February). [Progress Report: Responsible AI governance](#). Google AI.
- Google Cloud. (2026, February 4). [What are AI agents? Definition, examples, and types](#)
- Google Cloud. (2026). [An enterprise guide to multi-agent systems | Google Cloud](#)
- Google Cloud. (2026, February 5). [Use AI securely and responsibly | Cloud Architecture Center](#)
- Google Cloud CISO Blog. (2026, January 16). [Cloud CISO Perspectives: Practical guidance on building with SAIF](#)
- Google Developers. (2025, April 9). [Announcing the Agent2Agent Protocol \(A2A\) - Google Developers Blog](#)
- McKinsey & Company. (2025, November 5). [The state of AI in 2025: Agents, innovation, and transformation | VerifyWise AI Governance Library](#)
- McKinsey & Company. (2026, March 25). [State of AI trust in 2026: Shifting to the agentic era McKinsey Tech Forward](#).



04



ここから始める、 AI エージェント

調査結果では、現場社員に「仕事を良くしたい」という熱意と期待がありながらも、環境や理解の不足から、シャドー AI の常態化や活用格差といった課題が日本企業に生じていることがわかりました。現場のポテンシャルを安全に解放し、組織全体の変革を加速させる「AI エージェント」について、理解をより深めていきましょう。

AI エージェントの基本と可能性

AI エージェントと働くとって、 どういうこと？ 従来の AI チャットと何が違う？

生成 AI の認知度は 7 割ですが、AI エージェントの認知度は 4 割に留まります。
多くのビジネス パーソンにとって「言葉は聞いたことがあるが、具体的に
自分の業務にどう役立つのかイメージできない」という実態があります。

従来の AI チャットが一問一答型のツールだったのに対し、
AI エージェントは「複数ステップ、複数アプリにわたるワークフローを自律的に自動化する」
強力なパートナーです。

例えば、「Deep Research」エージェントを使えば、推論と計画を自ら行い、社内データやウェブを横断して検索し、何
週間もかかる調査とレポート作成を数時間に短縮できます。指示を待つだけでなく、自ら考えてタスクを遂行する「あ
なた専用の優秀なアシスタント」が隣にいるような体験、それが AI エージェントです。

Google Cloud は、職場における「AI の入口」として、企業向けに Gemini Enterprise を提供しています。

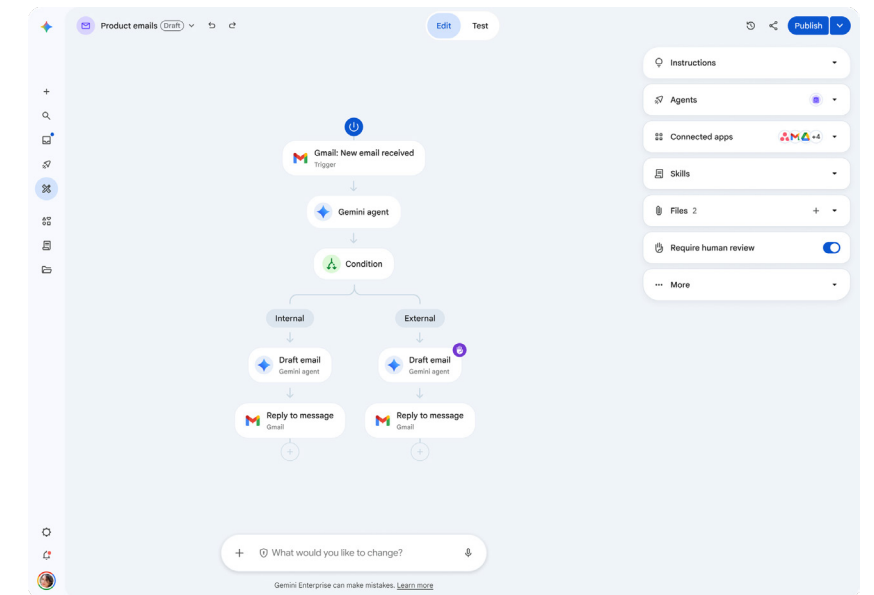
AI エージェントの基本と可能性

AI エージェントって、 エンジニアのような 専門知識がないと扱えない？

調査では、経営層が「専門スキルがなくても創作活動が行えること」を期待する一方で、
実際に AI を利用していない層の多くは「特別なスキルが必要なのではないか」
「使いこなすのが難しそう」という心理的ハードルを抱えていることが浮き彫りになりました。

プログラミングの知識は
一切不要です。

Gemini Enterprise には「Agent
Designer (エージェント デザイナー)」
というノーコード ツールが組み込まれて
います。普段あなたが同僚に話しかけるよ
うな「自然な言葉」で目的を伝えるだけ
で、裏側のロジックを自動生成し、あなた
専用のエージェントをすぐに起動できま
す。IT 部門に頼ることなく、誰もが自分の
業務に直結したエージェントをその場で
生み出すことが可能です。



安全性とガバナンス

なぜシャドー AI はだめ？ 使い慣れている AI の方が 便利では？

調査結果が示す通り、業務で非公認の「シャドー AI」を利用している層は半数にのぼり、彼らこそが組織内で最も強い課題意識を持つ「潜在的なイノベーター」であることがわかりました。なぜ組織として「公認の安全な環境」へ移行する必要があるのでしょうか。

効率化を求めるあなたの熱意は、組織の貴重な原動力です。

しかし、個人用（会社非公認）の AI に社外秘のデータや顧客情報を入力すると、そのデータが AI の学習素材として使われ、社外に情報漏洩する重大なリスクがあります。

Gemini Enterprise を導入すれば、強固なセキュリティに守られた「安全な囲い」の中で、安心して社内データを活用できます。もちろん、入力したデータが外部の一般モデルの学習に使われることは一切ありません。組織の隠れた「変革したい熱意」を、リスクではなく、組織の成果へと昇華させます。

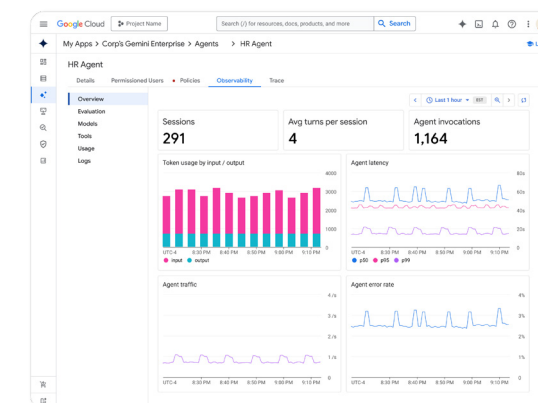
安全性とガバナンス

AI エージェントが組織にあふれて 大丈夫？ セキュリティや管理上の リスクは生じない？

シャドー AI の常態化という実態を前に、経営層や IT 管理部門が最も懸念するのは「ガバナンスの欠如」です。現場の自発的な AI 活用を推奨すること、企業の機密情報を守るセキュリティ統制をいかにして両立させるべきでしょうか。

Gemini Enterprise なら、単一のプラットフォームから「すべてのエージェント、権限、ポリシーを一元的に可視化して制御」できます。どのデータにアクセスして良いかという権限管理は、いま使っている ID 基盤とそのまま連携します。Google Workspace の Google アカウントに加え、Microsoft Entra ID や Okta をはじめとする既存の ID プロバイダーで認証でき、ユーザーを Google 側に作り直す必要はありません。

管理者は「誰が、どのエージェントを作成し、どのアプリやデータにアクセスできるか」を完全にコントロールし、アクティビティをモニタリング。現場のエージェント作成を後押ししながらも、エンタープライズ グレードのガバナンスとセキュリティを両立させています。



安全性とガバナンス

AI が作った資料や文書、 生成されたものだと わからなくなってしまうのでは？

AI 導入の成果として「作成物の品質・一貫性の向上」が挙げられる一方で、AI が生成した情報に対する「正確性の担保」や「責任の所在」に不安を感じる声も少なくありません。AI によるアウトプットの信頼性をいかに確保し、人間とどのように責任を分担することができるでしょうか。

**Gemini Enterprise のエージェントは、
社内のアクセス制御された信頼できるデータベースやシステムと
安全に接続(グラウンディング)して回答を生成するため、
「どの情報源に基づいて作成されたか」を明確に追跡できます。**

さらに、AI が下書きや分析を行っても、最終的な意思決定と微調整を行うのは常に人間です。AI による「圧倒的なスピードと網羅性」に人間の「専門知識」が組み合わさることで、アウトプットの品質と一貫性はむしろ飛躍的に高まります。

Gemini Enterprise には、AI が生成したテキストや画像であることを示す目に見えない電子透かし (SynthID など) や、生成プロセスを追跡する高度な技術が組み込まれています。画像、動画、音声の SynthID 検証機能はすでに Gemini アプリに搭載されており、この検証機能を Google 検索 に、さらに Chrome へと拡張します。

コンテンツの作成や編集履歴をわかりやすくするために (2026 年 5 月 20 日 Google Japan Blog)

組織での実践

Google Workspace 以外の システムや、自社の独自データと も連携できる？

現場から寄せられた AI への大きな期待の一つが、「ベテラン社員のノウハウ継承」でした。これを真に実現するためには、AI が単独で動くのではなく、企業内に蓄積された膨大な既存データや、日常的に使用している業務システムとシームレスに連携し、組織の「暗黙知」にアクセスできる環境が不可欠となります。

さまざまなシステムやツールと、シームレスに連携が可能です。

Gemini Enterprise は、Google ドキュメントやスプレッドシート、ドライブ内のデータはもちろん、Microsoft 365 や、Salesforce などの CRM 、各種 ERP といったサードパーティ製ツール、さらには BigQuery など自社のデータウェアハウスとも安全に接続できます。

組織内のデータサイロを打破し、AI エージェントが企業全体のノウハウに横断的にアクセスして、必要な情報を瞬時に引き出します。

組織での実践

Gemini Enterprise を活用したら、具体的に日々の業務はどう削減される？

調査では「AI を活用すれば精神的なゆとりを持てる」と答えた方が約 6 割にのぼり、さらに AI の発展による「仕事の充実度向上」への期待が、プライベートを上回りました。この現場が求める「精神的なゆとり」や「仕事の充実」は、AI エージェントの導入によって具体的にどのような形で実現されるのでしょうか。

とある製造業の一日：



製造現場の朝

Gemini Enterprise なら、ベテラン社員の現場知識は消えずに、組織に残り続けます。これまで散らばっていた情報も、いま必要とする作業員の手元に、使える知識として届くようになりました。



生産部の午後

Gemini Enterprise なら、AI が根拠と不確実性を提示し、判断の余地を人に残します。「散在する情報に辿り着けない」「情報をそのまま使えない」という課題を、AI と人の協働で乗り越えることができます。



調達課の夕方

判断根拠はナレッジとして残り、AI の判定はあくまで暫定案、人間がいつでも覆せるというルールで運用しています。「手作業が業務のボトルネックになる」という課題を、判断と実行の自律連鎖で乗り越えることができます。



経営者の夜

今日対処したものから、明日発生し得るリスクの芽まで、AI が提示します。現場と経営の距離をゼロにすることで、意思決定が確実に加速していきます。

組織での実践

AI エージェントを使えば使うほど、料金が上がっていく？

現場での活用が進めば進むほど、経営層や導入責任者が直面するのが「コスト管理」の壁です。従来の従量課金型の AI サービスでは「使えば使うほど予算が膨れ上がる」という懸念が生じ、結果として現場での自由な活用にブレーキをかけてしまうという、本末転倒な事態がありました。

Gemini Enterprise なら、使用する AI エージェントの量や処理したデータ量に応じて変化する従量課金ではなく、「利用するユーザー数に応じた定額制（ライセンス課金）」が基本です。Gemini Enterprise app には、組織の固有のニーズに合わせて設計された複数のエディションがあります。

Gemini Enterprise Business

個人、小規模ビジネス、300 人までのチームに最適。IT のセットアップは不要です。

Gemini Enterprise Standard / Gemini Enterprise Plus

セキュリティとコンプライアンスに関するより厳格な要件を必要とする組織向けに設計されています。クォータの引き上げ、無制限のシート数、サードパーティ エージェントへのアクセス、Gemini Code Assist が含まれます。

Gemini Enterprise Frontline

現場スタッフ向け。ユーザーは、管理者がプロビジョニングした、以前に開発されたエージェントにのみアクセスできます。

Gemini Enterprise お役立ちコンテンツ

▶ Cloud OnAir ウェビナー開催

Google Cloud の最新技術や製品を解説するオンライン セミナーを定期開催。Gemini Enterprise をはじめ、AI の活用法や実践的なデモを、エキスパートがわかりやすくお伝えします。



▶ 5分でマスター! Google Cloud 速習シリーズ

Google Cloud Japan 公式 YouTube チャンネルの人気シリーズ。Gemini Enterprise や各種 AI ソリューションの概要・メリットを、Google Cloud 社員が 5 分間で要点を絞って解説します。



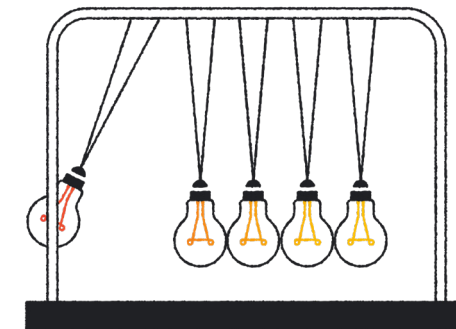
▶ Google Cloud 主催イベント

大型カンファレンスからテーマ別のセミナーまで、Google Cloud が主催する各種イベント情報を集約。Gemini Enterprise の最新動向を学べるセッションへの参加登録が行えます。



▶ Google Cloud 公式ユーザー会 Jagu'e'r

日本国内のエンタープライズ向け Google Cloud ユーザー会です。企業間での知見共有や交流が活発に行われており、Gemini のビジネス活用に関するリアルなノウハウや実践的な事例も学ぶことができます。



▶ Google Cloud Japan ブログ

Google Cloud の最新ニュースを発信する日本語の公式ブログ。Gemini Enterprise の新機能やアップデートの解説、国内企業の先進的な活用事例など、ビジネスに直結する有益なコンテンツを日々公開しています。



▶ Gemini Enterprise 企業事例

生成 AI をビジネスに導入し、成果を上げている国内企業の事例集。業界や課題別に Gemini Enterprise の実践的な活用事例を検索でき、自社への導入に向けた具体的なヒントが得られます。



▶ 公式 note「企業活用」

Google の AI「Gemini」公式 note アカウント。マガジン「企業活用」では、Gemini Enterprise を用いて業務効率化やイノベーションを実現した企業のリアルな声や、実践的なプロンプトのコツを多数紹介しています。



▶ PIVOT: Gemini Enterprise SKILL SET

ビジネス映像メディア「PIVOT」で、Gemini Enterprise 特集をお届けしています。Google Cloud 社員を交え、あらゆる企業が Gemini Enterprise のポテンシャルを最大限に引き出すための活用術を深掘りしています。





無料の学習プログラム

GEAR

Gemini Enterprise
Agent Ready



① 毎月 35 クレジット

Google Cloud 本番環境を料金を気にせず使える

GEAR に登録すると、毎月 35 クレジットが Google Skills (Google の学習プラットフォーム) に自動付与されます。このクレジットの最大の魅力は、Google Cloud の本番環境を含む実機ラボにアクセスし、ご自身のペースで存分に操作を体験できる点です。

② 4 つの学習パス

リリースできるエージェントを作る力が身につく

GEAR の中核は、4 本の学習パスです。順を追って積み上げれば、" 動くものを作る " だけでなく、" 組織で使える状態に届ける " ところまで到達できます。

③ Google 公式バッジ

認定 AI 人材になれる

各学習パスを修了すると、Google 公式スキルバッジが発行されます。バッジは Google Developer Profile で公開でき、LinkedIn などへの連携も可能です。GEAR での学習を進めることで、単に AI の知識を深めるだけでなく、「Google が認定する実践的なスキルを身につけた人材」へのステップアップを目指せます。

AI エージェントを大規模に構築する新たな道筋、Gemini Enterprise Agent Ready (GEAR) プログラムが利用可能に | Google Cloud 公式ブログ

Gemini Enterprise について
Google Cloud セールス スペシャリストに
問い合わせる

cloud.google.com/contact/form

2026 年 7 月版



cloud.google.com